



NEW ART EST-OUEST
SINCE 1984

AUCTION NEWS

NEW ART EST-OUEST AUCTIONS

SINCE 1984

創立40周年、皆さまありがとうございます

1984年、ニューアート・エストウェストオークションズはアジアで初めてのオークションハウスとして誕生して以来、今年で創立40周年を迎える事が出来ました。これもひとえに、長きにわたり私たちを支えてくださった皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。これからも、東洋と西洋の異なる文化を繋ぐ架け橋となるべく、国際的なオークションを企画運営してまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

40周年を記念しまして5月18日に
特別オークションを開催致します



ニューアート・エストウェストオークションズの40年間

1984

1984年3月15日第1回オークション「ドーム家秘蔵コレクション」



東京・ホテルオークラ「銀杏の間」
 パリ・エッフェル塔2階 サロンオーギュスタン

記念すべきエスト・ウェスト第1回目のオークションでは、東京とパリを専用回線で中継。社名のおり、EST(東)とOUEST(西)をつないだオークション史上初の中継の試みは、8時間の時差と9,700kmの距離を超えて実現しました。

ドームの「蓐草と蜘蛛文花瓶」がガラス作品として当時の世界記録となる5,500万円*で落札されました。

*ハンマープライス



ドーム「蓐草と蜘蛛文花瓶」



B. ビュッフェ「パレットを持つ自画像」190 × 89 cm

1988

1988年12月7日
 コレクション「ベルナルル・ビュッフェ」

B. ビュッフェのコレクションセールでは1945-55年作の油彩・グワッシュ40点が登場。落札率100%、落札総額7億9,750万円を記録。89年の印象派・近代・現代絵画セールではモネ、ピカソ、ルノワール、マチス、ビュッフェなど68点が出品、落札総額22億1,060万円を記録しました。

1989

1989年12月7日
 印象派・近代・現代絵画セール

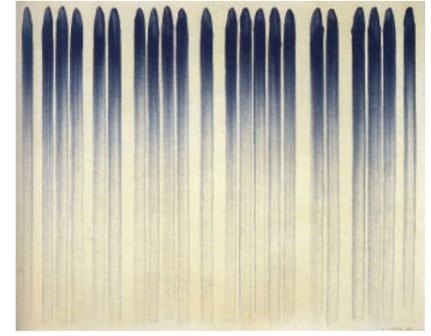


藤田嗣治「小さな騎手」74 × 51 cm

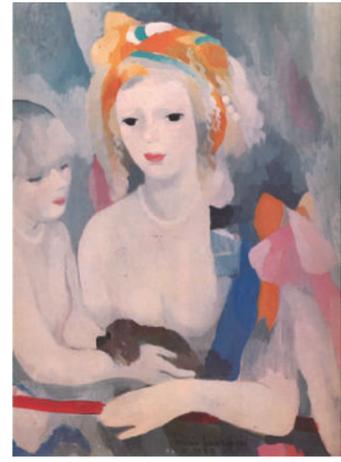
1991



A. ウォーホル「キャンベルチキンスープ」51 × 51 cm



L. ウォーファン「From line」80.3 × 100 cm



M. ローランサン「クレオール」81 × 60 cm



萩須高徳「ボトルの置かれた棚」81 × 60.5 cm

1996

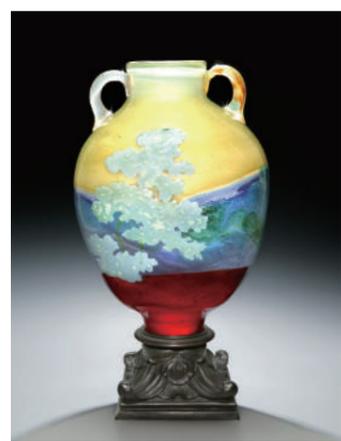
過去に取り扱った作品の中には、現在では市場価格が跳ね上がっているもの、逆に下がってしまっているものなど、流行や景気の変動によりさまざまな経過をたどっています。

美術品市場を見続けてきた40年間で、エスト・ウェストとしての考え方や役割を築き上げて来ました。

2006

2006年3月25日、エミール・ガレ「花瓶—孤独の中の休息—」の落札価格2億2,655万1,250円が世界記録となりました。

また、2007年5月25日東京セールにおいてP. ピカソの油彩画「旗を持つ男」が4億6,412万6,250円を記録。当時の日本国内オークションでの最高落札価格となるなど、ジャンルを問わず記録的な結果を作っていました。



E. ガレ「花瓶—孤独の中の休息—」h47 cm

2007



P. ピカソ「旗を持つ男」116 × 89 cm

2008

2008年11月24日—25日
 第1回香港オークション
 アイランドシャングリラ香港

2008年、日本のオークション会社として初めて香港に進出。近代・戦後・現代美術、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、東洋美術など約400点を出品。アジア随一の国際都市で、美術品市場の開拓に努めてきました。



2009



奈良美智「ASH NIGHT」204.3 × 154.7 cm

2009年には奈良美智の2mを超えるアクリル画がエスト・ウェスト香港セールで作家のオークションレコードを更新。そのレコードは年々香港の地で塗り替えられることとなります。

2010



宋元山水花鳥図丸札册(9点)



ULYSSE NARDIN "チンギスハーン"

2010年秋季セールでは南宋時代の花鳥図9点が予想価格の30倍にあたる約9,240万円を落札。高級腕時計コレクションセールでは、ULYSSE NARDIN "チンギスハーン"が約3,300万円超を記録。

2012



藤田 嗣治「貯金箱を持つ少女」
33.5 × 24.2 cm

石鍋コレクション 湘南江の島 香水瓶美術館コレクション

2011年秋から12年春にかけて香港と東京で開催された石鍋裕氏のコレクションセールは、西洋装飾美術から近代・現代絵画、ジュエリー、ワインなど幅広い品揃えでコレクターを惹きつけました。

また、12年秋の東京セールではラリックの香水瓶「シレーヌ」が2,875万円で落札。香水瓶として世界最高落札額を記録するなど華々しい年でした。



2013



今井 俊満「溶ける太陽」162 × 130 cm

2013年1月25日ー26日 ファーストシンガポールセール

香港同様、日本のオークションハウスで初めて、シンガポールでのオークションを開催しました。多くの新規海外コレクターを獲得し、これらの方々がこの後のオークションにおける重要なビッドとなりました。



2014

2014年1月 シンガポールセール ラッフルズ・ホテルでオークション開催



E. フリンク「死する王」

エスト・ウェスト 30周年記念
2014年に30周年を記念。秋の香港セールでは、高さ2mを誇るA. ロダン「着衣のピエール・ド・ヴィッサン」が約1億1,600万円で落札。美術史に残る巨匠の大像をめぐり、白熱した競り合いが繰り広げられました。



2015



白髪 一雄「古史」91 × 91 cm
落札価格 約 7,814 万円



M. キスリング「花とミモザ」84 × 62 cm
落札価格 約 2,454 万円

2015年は5月の香港セールでは吉原治良が、12月のセールでは白髪一雄がトップロットになり、「具体」に対する世界的評価が高いことを実感しました。また、中華系コレクターがヨーロッパの近代絵画を落札するなど、市場に新たな動きがある年でした。

2018

日本戦後美術の作家作品の再評価が進み新たなコレクターを獲得すると同時に、ロッカクアヤコなど現代美術の作家に注目が集まり、予想価格を上回って落札されるなど、市場にまた、今までと異なる流れが起きていることが感じられました。



山口長男「二つの組合せ」181 × 181 cm



中西夏之「韻」53.3 × 45.8 cm

2020

新型コロナウイルス感染拡大により、私たち一人一人がライフスタイルの変化を余儀なくされた2020年。オンラインで下見会が体験できる「バーチャル・プレビュー」を開始、さらにライブビッドシステムを一新しました。結果海外のお客様の参加も増え、新しい顧客層の獲得ができるなど、実りのある一年になりました。



2021



2021年10月、日本初で初めて羽田空港にて保税美術品オークションを開催いたしました。落札率93%、落札総額26億5千万円の大成功を収めました。

さらに11月、帝国ホテルにて行われた近代美術オークションに、重要文化財「紙本著色 紙本著色 拾遺古徳伝 巻第八」が登場。2億4,390万円で落札されました。

2022

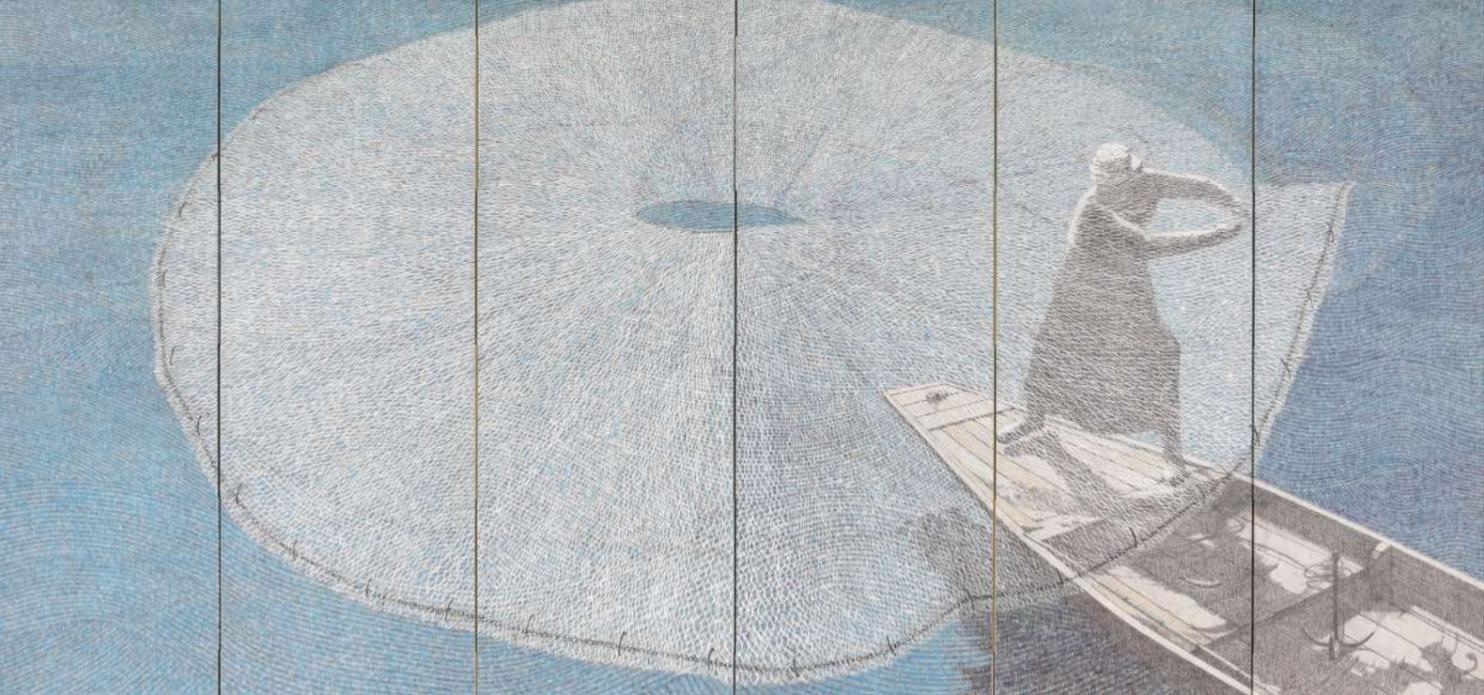


江上越「にじいろ -07」2019



Backside works. 「Flowers」2022

2021年に続き、寺田倉庫の新規保税倉庫にてオークションを開催。落札率95%、落札総額9億1,000万円の盛況ぶりでした。多くの若手作家をフューチャーしたことで、若い世代の注目を集めたことが成功の鍵となりました。

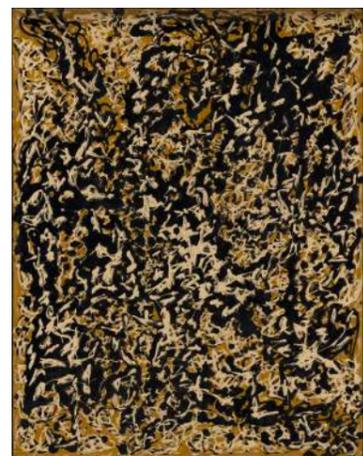


モダン&コンテンポラリーアート

アートマーケットは上昇傾向、国際銘柄に高い評価

近年、日本のアートオークション市場は円安でドル建ての価格が上がった影響により、全体的に売上高が上昇傾向にあります。特に現代美術のような世界の投資家が注目する分野や国際的なマーケットのある作家やジャンルの作品は数多く出品され高額で取引されています。アンディー・ウォーホル、デビットホックニー、草間彌生、藤田嗣治、浮世絵、ティファニースタジオ、ラリックなどの西洋ガラス、パテック・フィリップなどの腕時計などはその一例です。

近頃は若手アーティストの作品売上に落ち着いた傾向が見られ、同時にコレクターはアート作品を購入する際にやや慎重な姿勢を見せていますが依然として注目度は高く、また上述したような国際的な銘柄はより好調な結果を収めていますので今後、日本国内のオークションは着実に進展するでしょう。



正延 正俊「作品」合成樹脂エナメル、キャンバス 1964

再注目の戦後美術

2023年のセールでは、戦後の日本前衛美術を代表するアーティストの作品が特に注目されました。正延正俊、桑山忠明、具体派の白髪一雄、もの派の李禹煥などがその例です。11月のオークションでは、国内外から多くのバイヤーが入札し、具体派

の結成メンバーである正延正俊の「作品」は535万9千円で落札され、落札予想価格を上回りました。ミニマル・アートで国際的な評価を確立した桑山忠明の作品「TK6554-3/4-62」は1,398万円で落札され、優れた芸術作品への持続的な追求や正当な評価が示されました。



アーヴィング・ペン「Grace Kelly」1955

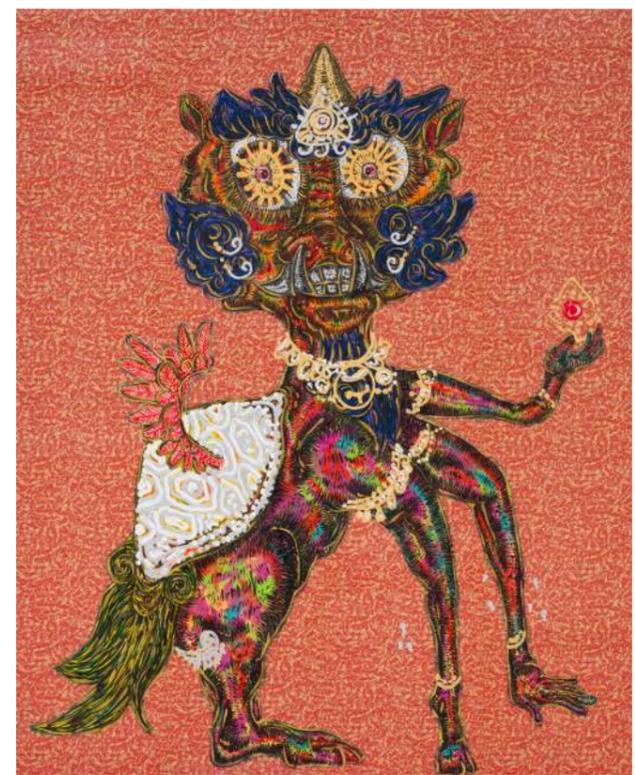
戦後美術のマーケットは一時的な低迷を経て、2012年にMoMAで開催された「Tokyo 1955-1970」展、翌年NYのグッゲンハイム美術館で行われた「具体」展の開催がきっかけとなり再び市場で重視されるようになりました。日本戦後美術の発展は国際的な要素と密接に関連しており、アーティストたちは世界各地からの新しい潮流や芸術運動に触れ、異なる文化の影響を吸収し、日本の芸術のグローバルな影響力を推進してきました。さらに作家たちは、美術や芸術の分野だけでなく、社会の問題に対する関心を表現するためにも活動しています。彼らは作品を通じて戦争の結果、社会の不平等、文化のアイデンティティなどのテーマを探求し、社会現象に対する批判と反省を伝えています。これらのコンセプトが多くの人々に支持されている理由といえるでしょう。

市場を牽引する草間彌生

2023年11月のオークションでは草間彌生の10号ほどの抽象作品「夕映えの命」と水彩作品「かぼちゃの季節」は、それぞれ8,155万円および5,825万円で落札され、本セールの焦点となりました。

2023年 高額落札作品 TOP15

1	草間 彌生	夕映えの命
2	草間 彌生	かぼちゃの季節
3	桑山 忠明	TK6554-3/4-62
4	草間 彌生	FLOWER
5	草間 彌生	ハイヒール (2)
6	藤田 嗣治	美人
7	ヘルナール・ビュッフェ	チューリップの花束
8	宮廻 正明	水火花 (螺)
9	桑山 忠明	TK259-3/4-18
10	草間 彌生	コーヒークップ
11	草間 彌生	われわれの魂の沈んでいった果てに、この黒々とした山はすべてを愛につつまでしよう
12	草間 彌生	とかげ
13	草間 彌生	PUMPKIN (草間彌生全版画集特装本添付作品、同画集付)
14	草間 彌生	FLOWERS (C)
15	ジャン・ピエール・カシニョール	水玉のドレス



小松美羽「ベネチアの空 赤の時」アクリル、キャンバス、博多織 2019

草間彌生は、ポストモダンアートの代表的なアーティストのひとりであり、日本現代美術の中で最も国際的に評価されているといっても過言ではありません。彼女の作品は世界中で展示され、コレクターから注目を浴びています。近年のコロナ禍やドルの影響を受けながらも、草間彌生の作品はオークションで高額で取引されています。国内オークションマーケットをみても出品数、売上高ともにトップであり今後も市場を牽引するでしょう。

海外コレクターに求められる近代日本画、近代洋画は藤田嗣治に注目

近代日本画と洋画のマーケットは全体的に安定していますが、度々オークションで出品されている作家の中では藤田嗣治、ヘルナール・ビュッフェ、ジャン・ピエール・カシニョールは近年価値が上昇しています。特に藤田嗣治は国際的な人気を誇りますが圧倒的に日本人からの支持があり良品を求めるコレクターが後を絶ちません。また中国コレクターからも需要があり高い人気を誇ります。



ヘルナール・ビュッフェ「チューリップの花束」油彩、キャンバス 1958

日本画では宮廻正明の代表シリーズ「水火花 (螺)」が海外コレクターから高く評価されました。「水火花 (螺)」は、漁師が網を広げて魚を捕る場面を描いています。腕を振るうと網が円形に広がり、驚いた魚が跳ね上がり、水が目の前で花火のように散るさまが、繊細な色づかいと大胆な構図で表現されている非常に魅力的な作品です。オークションでは会場参加者とオンラインビッドの競り合いにより落札予想価格下値の5倍以上となる932万円で落札されました。近代日本画は国内での人気が高い一方で海外からのビッドが少ないジャンルですが、この結果は近代日本画の前向きな可能性を示しました。

今後のオークションでは、引き続きコレクターや文化機関に対し、より豊かで優れたアート作品を提供することに力を注ぎます。コンテンポラリー絵画、彫刻、インスタレーション、写真などの分野で、芸術オークション市場にさらなる活力を高めたいと考えます。写真作品のセクションにおいては、さらに優れた写真作品を市場に導入することを期待しています。これは日本の美術市場を豊かにするだけでなく、日本アートを世界に広めることにもつながります。また、国内マーケットを出発点とし、アジアおよび世界のアートマーケットに向けて開かれた姿勢で進化していくことを期待しています。



アール・ヌーヴォー & アール・デコ、西洋装飾美術

西洋装飾美術、86%の高落札率

2023年度の西洋装飾美術は3月、7月、9月、11月の4回のセールを行い、全体の落札率は86.44%となりました。ガレ、ドーム、ラリックは安定した人気を誇り、海外顧客より注目を集めたティファニースタジオやルソーの優品が華々しい結果となりました。

ラリック下値の約6倍、安定の人気

3月セールでは西洋装飾美術からは136点の出品、落札率は82%でした。この回はアール・ヌーヴォーからアール・デコのランプが多数並び、非常に華やかな展示となりました。中でも注目はティファニースタジオの「牡丹文フロアランプ」です。弊社では2022年に続き、ティファニースタジオのフロアランプが出品されることとなり、国内では大変貴重なこの機会に多くの注目を集めました。

オークションはミュシャのリトグラフから競りが始まり、最初の注目ロットであるKPMベルリンの陶板「エジプトに逃れる聖家族」へ。こちらは53cm×43cmにもなる大作で、その大きさ、出来栄えともに希少性の高い逸品です。落札額は226万円で、陶板画としてはかなりの高額となりました。競りはマイセンへと



KPMベルリン 陶板「エジプトに逃れる聖家族」 落札価格：226万円

続き、順当に落札されていきました。特にティーセットの人気の高さがうかがえます。

ドームの注目作品である「葡萄とカタツムリ文花瓶」は、カタツムリが立体的に造形されており、6割が修復されているといわれる中で非常に美品が出品され、下値の約2倍である235万円で落札。続く「ユーカリ文ランプ」も激しく競り合い、157万円で落札されました。さらに、ガレの「海底文花瓶」などのアーティスティック作品が勢いに乗り、いずれも高額での落札となりました。

セール後半のラリックでは、オークション市場に減多に出回ることのない希少な一作、噴水モニュメント「ハト」が登場。国内外から多くの注目を集め、各国の電話ビッドが激しく競り合い、落札予想価格50-80万円のところ、下値の約6倍である302万円という華々しい結果となりました。続く像「聖女オディール」も175万円という高額での落札となりました。

続く円安の影響、ルソー「獅子」は609万円で海外コレクターの手に

7月セールでは西洋装飾美術からは105点出品され、落札率は92.4%の好成績でした。質の良いアール・ヌーヴォーのガラス作品が多数出品されたことが結果につながりました。

ガレは手堅く、多くの作品が競り合いの末に落札されました。落札予想価格下値の3.7倍以上となる作品もあり、その確かな価値を裏付ける結果となりました。

ドームの作品は、その魅力である小柄で繊細なものから、希少な大型作品までそろい、愛好家の目を楽しませました。さらに冬景色文など人気の図柄が多数出品され、いずれも高額での落札となりました。中でも、グリザイコ画法によって繊細に描かれた風景とドームならではの優しい色使いが魅力的な「花畑文花瓶」は、



ドーム「紫陽花と蝶文花瓶」 落札価格：345万円



マーティン・ブラザーズ「ウォーリーバード」



ティファニースタジオ「牡丹文フロアランプ」



マイセン 飾り壺「四大元素（水）」

落札予想価格下値の約2.8倍の195万円で落札。続いて、清涼感溢れる斑紋挿入地にエナメル彩によって装飾された紫陽花と蝶がなんとも優美な輝きを放つ「紫陽花と蝶文花瓶」は、落札予想価格下値の約2.4倍である345万円で落札され、ドーム作品の魅力と人気を再確認することとなりました。



ルソー「獅子」 落札価格：609万円

ルソーの作品が600万円を超える事は今日では非常に珍しく、会場から拍手が沸き起こりました。

その後アール・デコの作品にうつり、大変な盛り上がりを見せたのはカルティエの「カトラリー 86点セット」でした。落札予想価格15-25万円のところ、電話、オンライン、会場と多くの参加者が競り合いの末、落札予想価格下値の6倍である80万円で落札され、西洋装飾美術は盛況のうちに終えました。

マーティン・ブラザーズ出品、日本に新たな市場を作れるか



ラリック「噴水モニュメント」 落札価格：302万円

9月オークションの西洋は出品数が少ないながら、非常に興味深い作品が集まりました。

ドームの小ぶりかわいらしい作品が次々と落札される中、横幅最大24.5cmの存在感ある「風雨樹林文鉢」が登場。同じ絵柄の中でも色味や描きこみの完成

度が高く、目を奪われる逸品です。こちらは276万円で落札され、7月出品の「紫陽花と蝶文花瓶」に次ぐ金額となりました。

続いて、海の神話をモチーフとした非常に珍しいガレの初期作品である「海の神話文花瓶」。サリシュールによって水の流れ、ビュラージュによって海の泡を表現しており、技巧を凝らした逸品です。こちらは264万円で海外コレクターの手に渡りました。



ガレ「海の神話文花瓶」 落札価格：264万円

本セールで一番注目を集めた作品は、マーティン・ブラザーズの煙草入れ「ウォーリーバード」です。マーティン・ブラザーズはイギリスの4兄弟による陶器メーカー。イギリスらしいともいえる唯一無二の表現と技術力の高さから、世界中のコレクターから高い評価を得ています。世界中で高い人気を誇る中、日本ではまだ知名度が低く、市場に出回ることにはめったにないため、日本での新たな流れを生む絶好の機会となりました。国内外から多くの問い合わせがあり、下見会には「ウォーリーバード」のみを見に来る愛好家もいるほどでした。5万円からスタートすると、会場、海外オンライン、電話と次々とパドルが上がり、最終的には97万円で落札。今後の日本での評価に大いに期待できる結果となりました。

11月オークションは、ティファニースタジオのテーブルランプやガレの梅文ランプ、マイセンの飾り壺「四大元素（水）」など、注目の大型作品が並びました。

9月セールに続き、ドームの「風雨樹林文花瓶」が登場。やはり安定的な人気をみせ、210万円で落札。続くガレの梅文ランプも高額で落札されました。ティファニースタジオのテーブルランプは、やはり国内外から多くの問い合わせを頂きました。今回は成り行き品ということもあり、競りがスタートするとすぐに会場と電話のパドルが上がります。最終的にはスタート価格の約3倍、172万円で落札されました。



日本美術・東洋美術

海外から大反響、落札率 85%



喜多川歌麿「南國美人合」此すミ

2023年、東洋部門は例年よりも多い海外コレクターの参加により全体の落札率は85.6%と好調を維持しました。出品作品は初だしの品や、まとまった個人コレクションが広く関心を集め、国内外の多くの方々にお問合せをいただきました。昨年に続き古美術・骨董品の底力、魅力を新たに発見した年となりました。

落札率 91%！ 波山の希少作品、清朝の精巧な作品に注目が集まる

3月には古伊万里、柿右衛門、薩摩、備前と古陶磁器から新作陶器と幅広い焼物コレクターの興味深いコレクションが出品されました。涼やかで清楚な板谷波山の初期の作品「彩磁ぎぼし文花瓶」は下見会で多くのコレクターから注目を浴び435万円で落札されました。また精巧な龍の彫金装飾が素晴らしい中国清朝の七宝大香炉が847万円と高額で落札され、中国古美術品の歴史的な価値のある精巧な作品に高評価が集まりました。



板谷 波山「彩磁ぎぼし文花瓶」
h28.4 × φ 15.2 cm 落札価格 435 万円



「清朝 七宝饗養文耳付大香炉」
h53.2 × w40.8cm 落札価格 847 万円

純金製の太刀が部門最高額 4,370 万円で落札、職人の技術力に評価

7月のセールでは、平澤正英 作「純金造 庄出菊亀甲地紋糸巻太刀拵」が落札予想価格 2,000-3,000 万円を大きく超えた 4,370 万円で落札、会場では白熱した競り合いに拍手が送られました。金工職人の技術を集結した豪華絢爛な一品は金価格以上に装飾の美しさを持つ芸術的価値が高く評価されました。

陶芸作品では非常に珍しいロット数の揃った北大路魯山人他作家の陶製魚形箸置き 42 客が落札予想価格下値の 5 倍以上となる 437 万円の落札、魯山人の人気の高さが窺えました。



二代目 平澤 正英 「純金造 庄出菊亀甲地紋糸巻太刀拵 純白金 太刀」
総長：97.0cm 総重量：約 3070g (異素材含む) 落札価格 4370 万円

愛好家が殺到した李朝コレクション

9月のセールでは個人蒐集家による朝鮮陶磁器コレクションが一堂に会し、国内・海外からと非常に高い関心が寄せられたセールとなりました。連日多くの方が下見会に訪れ、当日は会場とオンラインの白熱した競り合いとなりました。中でも愛好家が殺到した粉青沙器瓶・扁壺の2点組は落札予想価格下値の90倍となる287万円で落札、次いで李朝白磁壺（ムーンジャー）が60倍の322万円で落札となり、想定以上の結果に、美術品・骨董品の持つ力と可能性が感じられたオークションでした。



「李朝コレクション」

ジュエリー & ウォッチ

高騰する高級腕時計

2023年は超高級ブランドの腕時計が出品され、作品に対するお問い合わせや下見会で実際に時計を身に着けるなど実物を吟味するコレクターの姿が数多くみられました。

中でもパテック・フィリップとロレックスは人気が高く、限定品や製造終了しているレアな逸品を求めめる傾向が見受けられます。

パテック・フィリップの「ノーチラス パワーリザーブ ムーンフェイス 5712R-001 ゴールド腕時計」は1,069万円で落札、ロレックスは「サブマリーナ デイト 1680/8 イエローゴールド腕時計」が609万円で落札されたほか、「デイト 40 ダイヤモンド ゴールド腕時計」が333万円、「GMT マスター II VTNR 126720 腕時計」が287万円で落札されました。

近年、品薄や原材料費の値上がりに投機的な動きも加わり、世界的に需要が増加した事で海外ブランドの高級腕時計の価格は高騰しています。

また、パテック・フィリップなどの世界7大時計ブランドやロレックスなど伝統ある名門ブランドに加えて、2001年に誕生したりシャール・ミルをはじめとする新進気鋭の超高級腕時計ブランドがオークションでも出品されるようになり、今後の市場動向が注目されています。



15.00ct ダイヤモンド
ホワイトゴールド ネックレス
落札価格 145 万円



パテック・フィリップ
ノーチラス ゴールド腕時計
落札価格 1,069 万円



9.66 ct スリランカ産 アレキサンドライト
ダイヤモンド ゴールドリング
落札価格 954 万円



6.57 ct エメラルド
ダイヤモンド プラチナ リング
落札価格 411 万円



マットエナメル ハーフパール
フォーカラー ゴールド ベンダント トップ
落札価格 25 万 3 千円



7月リユージュ・ミュージック
オルゴール 懐中時計
落札価格 28 万 7 千円

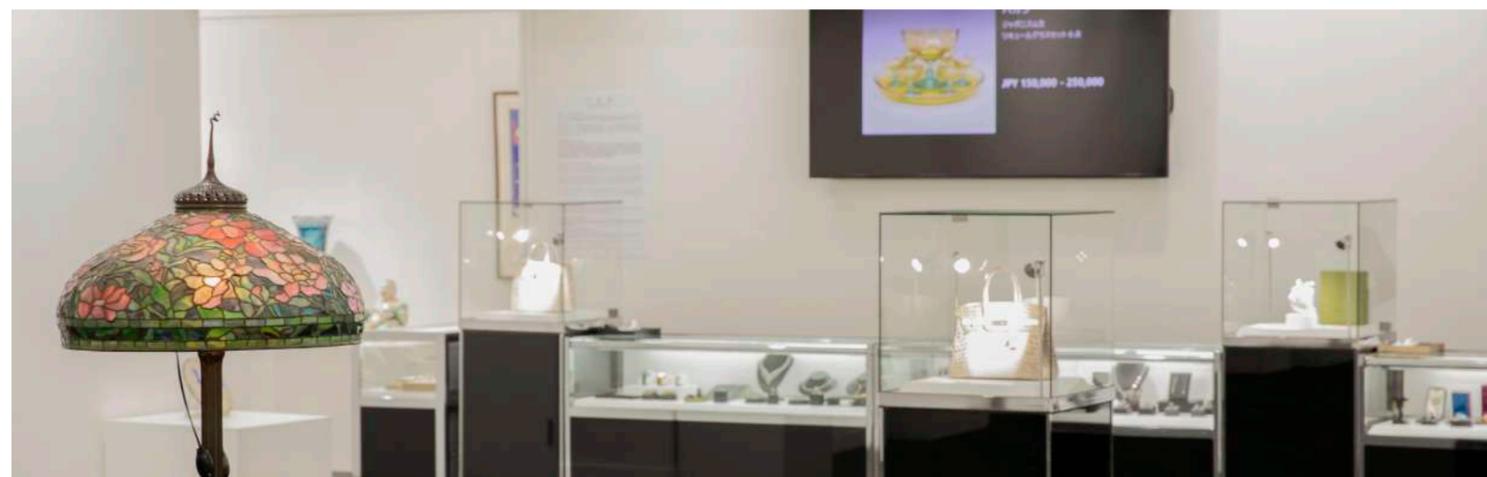
グラフやエルメスなど高級ブランドに人気が集まる

2023年のセールでは、宝石やブランドジュエリー、アンティークジュエリー、バッグ、高級腕時計など多彩なアイテムが華やかに出品されました。

特に3月は、エルメスの最高モデルであるヒマラヤクロコダイルのパーキンと、同じくホワイトヒマラヤクロコダイルのルイヴィトンバッグが2点揃って出品され、希少な素材と人気のデザインが注目され華やかにスタートしました。

9月に行われたセールではロンドンで発祥した宝飾ブランドであるグラフ (GRAFF) の「9.66 ct スリランカ産 アレキサンドライト ダイヤモンド ゴールドリング」が、落札予想価格 300 万 -500 万のところ、活発に競り上がり 954 万円と予想価格を大きく上回った額で落札されました。9 カラット以上のアレキサンドライトというカラーチェンジが楽しめる希少性の高い石と、グラフ (GRAFF) というブランド性が組み合わさった点が海外の愛好家に評価されました。

その他、アンティークジュエリーは100%に迫る落札率となり堅調な推移を見せ、根強いコレクターの存在を感じさせました。また、1g あたりの店頭買取価格が1万円を超えた金製品にも引き続き注目が集まります。



出品作品募集中

創立40周年記念オークション

5月18日(土)開催

出品作品締切日 3月26日(火)

コンテンポラリー&モダンアート

アールヌーヴォー&デコ、西洋装飾美術

日本・東洋美術

ウォッチ&ジュエリー



買取可

査定無料

株式会社ニューアート・エストウェストオークションズ

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-5-15 フリーダイヤル: 0120-70-3722

Tel: 03-5791-3131 Fax: 03-5791-3133 受付時間: 9:30-18:30 (月-金)

www.est-ouest.co.jp Email: info@newartest.com



価格査定



LINE